

今回は、電話料金の話をしてみましょう。

「みなさんの家は、どの電話会社と契約していますか？」と聞くと、おそらく大半の人は「NTT」と答えるのではないのでしょうか。それだけ、他の会社のシェアはまだ高くない様に思います。しかし、ここアメリカは広く大きい国ですので、電話会社もたくさんあります。ローカルな物も含め、GTE、AT&T、SPRINT、ALASCOM・・・と、州に一つは会社があるとのことですので、かなりの数に思えます。そして、それぞれの会社ごとにいろいろなサービスが用意されているようです。その中から、カートさん一家が契約している「GTE」という会社の例を取ってお話しすることにします。

GTE社のサービスは、限られた範囲内(といってもかなりのエリアです)でFlat fee(料金一律)です。一月当たり\$32.59(今は円の関係で¥4200ほど)をはらえば、一日中話していたとしても追加料金はありません。インターネットを必要とする人にとってはありがたい話です。限られた範囲を出ると、1分あたり¢10(12,3円くらい)を出すだけです。驚くことに、全米に渡ってこの値段ですので、西海岸のオレゴン州から東海岸のニューヨークに電話しても1分¢10なのです。(日本の北海道から沖縄までの何倍あることか・・・)ここらあたりが、アメリカらしさなんでしょうね。日本の、距離による料金システムを、長距離電話を例に話したら驚いていました。

他の会社についてもレポートすると比較できておもしろいのですが、情報を集められませんでした。聞くところによると、会社によっては、Prime Timeのシステムがあるところもあります。電話料金を、朝8時~夕方5時までは少し高めに、逆にそれ以外の時間帯を安めに設定しているようです。ほかにも、Call Waiting(キャッチホン)や、Caller ID Name(電話をかけた人のIDが表示されるシステム)など様々なサービスがあるので、必要に応じて利用できるようになっていきます。

せっかくですから、アメリカの電話番号について話しておきましょう。アメリカの電話番号は1 - - - 1 2 3 4という感じで書かれます。最初の1はロングディスタンスコール(長距離電話)を表します。もし、近くなれば必要ありません。次の - - - は州の番号を表します。そして、 - - - が市をあらわして、最後の部分が自分の番号になります。おもしろい電話番号もあります。たとえば、1 - 8 0 0 - C O L L E C Tといった具合です。1 - 8 0 0はフリーダイヤルを意味します。その続きの部分はダイヤル(プッシュボタン)に書いてあるアルファベットなのです。その通り押すと2 6 5 5 3 2 8となります。会社の宣伝効果もあるということで、広告にはよくこういった書き方をしてあるのを見かけます。

ついでに、公衆電話について。アメリカでは、基本的に¢25を入れると電話がかけられます。話したい放題のようです。長距離の場合はオペレーターの案内に従って料金を追加するようです。国が変わるとシステムも違う物ですね。